

立教大学学術推進特別重点資金（立教 S F R）
 大学院生研究
 2008年度研究成果報告書

研究科名	立教大学大学院	文学研究科	組織神学専攻
指導教員	所属・職名	氏名	
	文学研究科・教授	竹原 創一 印	
自然・人文の別	自然 ・ <input checked="" type="radio"/> 人文	個人・共同の別	<input checked="" type="radio"/> 個人 ・ 共同 名
研究課題名	セバスティアン・カステリョにおける宗教的寛容論		
研究代表者	在籍研究科・専攻・学年	氏名	
	文学研究科組織神学専攻博士課程 後期課程2年次（2008年度現在）	鈴木 昇司 印	
研究組織	在籍研究科・専攻・学年	氏名	
研究期間	2008 年度		
研究経費	200 千円		

研究の概要（200～300字で記入、図・グラフ等は使用しないこと。）

本研究が扱う領域は、キリスト教史およびキリスト教思想史である。その中でも、16世紀西欧における宗教的寛容論の展開が主題となる。本研究は、16世紀スイスに活躍した神学者、セバスティアン・カステリョの宗教的寛容論に焦点を当て、その思想がいかなる背景から生まれたものか、周囲にどのような影響を与えたか、それが現代における宗教的自由といかなる関係にあるのかを探ることを目的としている。またオウム事件や9.11事件などの宗教テロリズムに対する批判的な立場から、カステリョの思想を再評価することも視野に入れたいと考えている。

キーワード（研究内容をよく表しているものを3項目以内で記入。）

[歴史神学] [宗教的寛容論] [宗教改革史]

研究成果の概要 (図・グラフ等は使用しないこと。)

宗教改革者ジャン・カルヴァンは、1553年10月にミカエル・セルヴェトゥスをジュネーヴで焚刑に処した。その後起こったカルヴァンに対する批判のうち最も辛辣であったのは、バーゼルにいるセバスティアン・カステリョによるものだった。既にその主著となった *De haereticis, an sint persecuendi* (『異端は迫害さるべきか』) を書き上げていたカステリョは、あらゆる宗教的迫害を拒否する立場から、かつての同僚であるカルヴァンに痛烈な批判を浴びせた。カルヴァンは火刑への批判に対する弁明として、1554年2月に *Defensio orthodoxae fidei* (『正統信仰の擁護』) を出版した。これに対して、カステリョはただちに反論のペンを執った。これが *Contra libellum Calvinii* (『カルヴァンの書に対する駁論』、以下『駁論』と約す) である。

『駁論』は、『異端は迫害さるべきか』とは異なり、カルヴァンの主張に対し明確に反論する目的で書かれたものである。よって、カステリョとカルヴァンの論争におけるカステリョの独自性を探りたいのであれば、『異端は迫害さるべきか』よりも『カルヴァンの書に対する駁論』について論じるほうが有効である。

ところで報告者の2008年度以前の研究を通じて明らかになったことは、代表作『迫害さるべきか』における彼の寛容論が

1. 地上のイエスにならった生活道徳 (≒啓示)
→ 他者への愛と寛容を重んじる道徳的態度「教義よりも生活」
2. 聖書の曖昧さを根拠とする、中間時 (インテリム) の論理 (≒理性)
→ 本質・不可欠なものとはそうでないものとの弁別
→ 「正統と異端」という判断の相対化
3. 強制力の行使は異端の矯正に役立たず、かえってそれを力づけるという歴史上の経験
4. カルヴァンとカルヴァン神学に対する批判

という4つの論点によって支えられていることであった。

しかし『カルヴァンの書に対する駁論』においては、「判断の相対化」、「教義よりも生活」、「聖書の曖昧さについての指摘」、「カルヴァン批判」といった論点が表に出てくるのみであって、カステリョの代表的著作とされる『異端は迫害さるべきか』に較べ、3. 「強制力の有効性の否定」という論拠はそれほど表にあらわれない。逆に、『迫害さるべきか』において目立たなかった2. 「聖書の曖昧さ」が、『駁論』においては前面に押し出されているのである。

よって、『迫害さるべきか』を執筆した時期から『駁論』に至るまでに、カステリョにおいて自らの主張を神学的・理論的に構築しようという努力があったのではないかと推測できる。その際、彼の思想的転回の源泉となったのはユマニスト的な聖書観であった。カステリョは独自の聖書翻訳においても知られているが、それがどのようなものであったのかを精査することが、報告者の今後の課題となる。

研究成果の概要 つづき

※ この(様式 2)に記入の成果の公表を見合わせる必要がある場合は、その理由及び差し控え期間等を記入した調書(A 4 縦型横書き 1 枚・自由様式)を添付すること。